アラビアオリックスのペアリング時の安全管理について

○根津歩実
（横浜市立金沢動物園）

日々、飼育方法や繁殖方法が改善され、飼育技術が向上するのに併せて安全管理についても見直されている。より良い結果を生み出すためにも安全管理の向上は不可欠なものである。

現在、アラビアオリックスは、当園と福岡市動物園の２園で飼育しており、日本国内の飼育頭数は、オス５頭、メス３頭、計８頭であるため、国内での種の保存の観点から繁殖が課題となっている。アラビアオリックスは、まっすぐ伸びた角が特徴的だが、闘争時には、それにより深い傷を負うことがあり、その傷が要因で感染症を引き起こし、死亡したと思われる例も報告されている。当園では、安全管理のため単独飼育をしており、今回は、ペアリング時の更なる安全対策を実施したため、その事例を報告する。

ペアリングの監視体制は、２人以上の複数名で実施することを基本としており、更にお互いが目視できない状況下であっても連絡が取りあえる無線等を活用した連絡体制により行っている。今までペアリングを行っていたスペースでは、メスがオスに追い詰められて動けずに分離困難になり、受傷する点が課題であった。そこで安全対策としてペアリングスペースを広げ、かつペアリングエリアの行き止まり箇所をなくし周回できるようにしたことで、メスが追い詰められることもなく受傷する状況が見られなくなった。

現在、ペアリングを行うタイミングや同居後のペアリング継続の有無を決めるのは、経験を積んだ担当者による両個体の行動の見極めによるところが大きい。今後、経験が浅い職員が対応するケースも踏まえた安全管理体制の構築に取り組んでいきたい。